2025 年度 玉川学園教育課程特例校評価（自己評価結果）

評価：４（十分達成）、３（やや達成）、２（やや不十分）、１（不十分）

	評価区分	評価項目	実施内容・状況	2025 年度の自己評価
ＪＰクラス・ＥＰクラスにおける日本語と英語による指導	実施体制	カリキュラムや全体運営、クラス運営を適切に進める体制が取れているか。	● 特別免許を保有するコーディネーターを配置し、カリキュラムや全体運営を統括・管理出来ている。2024 年度同様、2 名の教員をリードティーチャーとして配置し、1 名は K-2 担当、もう 1 名は 3-5 担当としている。2025 年度は特に、コーディネーターを支援し、将来的なリーダーシップ育成を目的として、それぞれのリードティーチャーに明確な役割と責任を持たせた中間リーダー（ミドルリーダー）としての育成を進めている。この体制により、プログラムの質の向上に加え、幼ー小連携および 5 年生ーIB 連携の強化を図っている。 ● 教育部長を中心に BLES コーディネーターと教務主任と各教科担当教員が連携・調整を図ることで、英語と日本語の二言語による指導を円滑に実施、効果的に学べる環境を提供できている。	4 4
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	● 英語で教科指導を行う際は、学習指導要領の内容事項が担保されるよう、日本の教員免許保有者と外国籍教員（特別免許保有者等）で協働して指導計画や評価方法などを策定、実施に努めている。	4
		授業は円滑に運営できているか。	● 1・2 年生は学級担任制、3～5 年生は、英語で学ぶ教科である英語、算数、理科を学級担任で学習指導を実施している。 ● 日本語指導教科は検定教科書を、英語で指導または英語と日本語で指導する教科は検定教科書とその翻訳版、その他内容に応じた副教材を活用している。 ● 第 1 言語である日本語を着実に身に付け、その上で英語を同時に身に付けるという考えで学習を進めている。	4 4 4
	児童・生徒への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か。	● 小学校 1 年入学時点では英語力を問う試験は課さず、多様な背景を持った児童に対して教育の機会を提供している。 ● EP クラス編入希望者に対しては学年相応の英語力も必要となるが、学習環境や見通しなどを説明し、JP クラスのメリットも含め丁寧に説明し、個々に応じた対応を行っている。	4 4
		入学後の対応は適切か。	● 全教室に教師コーナーがあり、質問できる体制を取っている。 ● 英語力が不足する児童に対しては、少人数個別指導など弾力的に対応し、学力面は定期的な補習（SH）も実施している。	4 3
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	● ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。 ● 保護者に向けての教育説明、実践報告に努めている。 ● 授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。	4 3 3
	実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	● 英語力の向上がみられる。 ● 国語や算数などの基礎学力も定着している。	4 3
	その他	その他	● 6 年生からの MYP への接続に向けて、4 年生以上のカリキュラムの策定、実施を進める。 ● 外国籍教員の研修の充実	3 4

	評価区分	評価項目	実施内容・状況	2025 年度の自己評価
ＩＢクラス・ＭＹＰにおける英語による指導	実施体制	プログラムやカリキュラムの管理など全体運営を適切に進める体制が取れているか。	● 教育部長（IB 担当）を配置し、IB プログラム全体運営を統括・管理している。 ● 教務、カリキュラム管理では、コーディネーターと教務主任（IB 担当）を配置し、一般クラスとの連携を図りながら運営している。 ● 人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。	4 4 4
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	● 教務主任（Director of Teaching and Learning）を中心に各教科主任と担当教員が連携を図りながら、指導計画を作成し実施している。	4
		学習指導要領の内容は適切に実施されているか。	● 教務主任（IB 担当）及び IB 教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。	4
	児童・生徒への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か。	● 入学後の学習を見据えた入学試験を実施し、多様な背景を持った生徒に対して教育の機会を提供している。	4
		入学後の対応は適切か。	● 英語力および日本語力が不足する生徒に対しては、早朝の集中講義の提供や、習熟度別のクラス分けで効果的に言語力が身につくよう配慮している。 ● 模擬国連会議活動等への参加や、大学進学を視野に入れた講座など、教室の学びだけではない実践的な国際教育の場を提供している。	3 4
		国際標準教育が提供できているか。	● 教務主任（IB 担当）により双方のカリキュラムを適切に管理し、生徒が IB プログラムと一条校の学習指導要領の内容を効果的に全うできるよう、入念な措置を講じている。	4
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	● 年度毎のテーマに沿った説明会･講演会（IB フォーラム）において生徒による発表を行うなど、入学希望者のみならず一般向けにも授業の実践状況を紹介し、情報の提供に努めている。	3
	実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	● IB での学びを通じて「批判的思考」能力が培われている。 ● 将来の進路選択に際して、自立した考えを持つ生徒の増加。	4 3

	評価区分	評価項目	実施内容・状況	2025 年度の自己評価
ＩＢクラス・ＤＰにおける新科目の設置	実施体制	プログラムやカリキュラムの管理など全体運営を適切に進める体制が取れているか	● 教育部長（IB 担当）を配置し、IB プログラム全体運営を統括・管理している。 ● 教務、カリキュラム管理では、コーディネーターと教務主任（IB 担当）を配置し、一般クラスとの連携を図りながら運営している。 ● 人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。	4 4 4
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	● 教務主任（Director of Teaching and Learning）を中心に各教科主任と担当教員が連携を図りながら、指導計画を作成し実施している。	4
		学習指導要領の科目との対応関係を求める科目は適切に実施されているか。	● 教務主任（IB 担当）及び IB 教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。	4
	児童・生徒への教育上の配慮等	転編入や一般クラスとのクラス変更に際し、配慮出来ているか。	● IB クラス、一般クラス間で生徒や保護者の希望によるクラス変更を一定の基準の元、弾力的に行うとともに、他校へ転出する場合も指導対応する体制を取っている。	4
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	● ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。 ● 授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。	2 3
	実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	● 日本の高等学校の学習環境のもと、IBDP の学習内容をリンクさせて学習することが出来る。 ● 将来の進路において、国内外への大学進学などより幅広く選択できる可能性が広がる。	4 4